

# 武江年表後編

從延享元甲子年  
至嘉永元戊申年

四冊近刻

嘉永二年己酉十月刻

大坂心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

江戸日本橋通二丁目

## 發行書林

須原屋茂兵衛

同 淺草茅町二丁目

須原屋伊八

210  
4

## 發行

## 書林

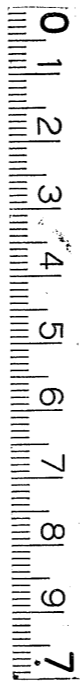
同 淺草茅町二丁目	同 神田通新石町	同 日本橋通四丁目	同 日本橋通二丁目	同 日本橋通二丁目	同 大傳馬町二丁目	同 神田旅籠町二丁目	同 本石町十軒店	同 横山町三丁目	同 日本橋通二丁目	江戸芝神明前	同心齋橋筋安堂寺町	大坂心齋橋筋北久太郎町	京都三條通井屋町
須原屋伊八	須原屋源助	須原屋佐助	須原屋新兵衛	須原屋茂兵衛	須原屋新兵衛	紙屋徳八	英屋大助	和泉屋金右衛門	山城屋佐兵衛	岡田屋嘉七	秋田屋太右衛門	河内屋喜兵衛	出雲寺文次郎

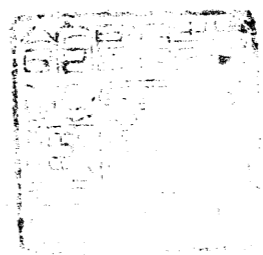
武江年表

五

五六  
五  
八

210
5





武江年表卷之五

延享元年甲子 二月十八日改元

二月朔日より湯島天満宮境内をて下野若船地蔵開帳○同日より市谷  
 八幡宮地主茶木稲荷社開帳○二月六日夜子上刺天中央より少一西の方へ  
 如以星現る嘉瑞とといふ○二月より護國寺にて武州新嶽山藏王  
 権現開帳○同月より浅草寺内松尾明神開帳○二月十五日より三日の  
 間中村勘三郎芝居身初の初年より百二十一年の壽狂言身初○矢口  
 新田神廟の碑を立南郭文を撰取○四月三日儒師山本吹丈平 名信一柳島  
 ○約辺新日山王宮營建○四月朔日浅草光感寺尚麻髪毛曼茶社を  
 相せしむ○四月より護國寺を上碓氷郡松井田金剛寺十一面觀世音

碓氷定光 開帳 ○四月朔日より津川八幡宮境内にて 伊勢白子子安親世音開帳 ○

守本尊 夏より冬まで諸國風邪流行 ○六月十五日 神道學者 岡田盤社 卒 名正利孫九を

乃幸 ○七月朔日より回向院にて慈念寺徳院大佛腹籠鉢陀開帳 ○七月

死八幡宮内氷室明神開帳 ○七月朔日より芝神明宮内にて稻根光明寺

十一面觀世音 倭後太 開帳 ○七月九日書家山本惟命 卒 林忠方忠の

○七月晦日俳人 中川宗瑞 卒 備後院 小藤 〇七月海中魚多死生實此魚

も同トく死せり ○八月八日 不動尊内にて大磯切通一梅林寺 身代

地蔵尊開帳 ○九月廿一日山谷町本性寺自雲靈神忌日之 松州川辺郡

孫右衛門と改む法花を信トて常以統傳唱歌以三十八府せうまふるまゝく死後

終るとして秋山自雲灵神と祭る ○九月廿七日金剛工土屋安親 卒 七十八才通林孫八

〇釜師浄林 卒 月日 不明

延享二年乙丑 十二月間

二月初日より茅場町某師境内にて信及蓮池院派訪本池務軍不動尊開帳

〇二月六日龜戸天満宮近隣の在家より火出く先祖信祐が建立せし社以下一宇

も跡を焼亡せり ○二月より淡谷長谷寺大徳親世音御首仏開帳 ○月十一日

より回向院にて上洲極楽山正法寺親世音開帳 ○二月十二日於五時迄千鉢谷より

出火青山跡ら後園麻布三郎家本村氷川社若福寺門前廣尾白令村三田保

四子白令瑞聖寺後町車町寺輪南小石川追焼亡 武家町在野 〇十二月十三日

鎮守宮橋如來寺小立なる個唱が他丈六の仁王尊に石像并地蔵尊の石像も

焼亡る方あり 白金細川侯邸布一尺の辺伊四子の 〇四月朔日より淡谷実相寺

少之常陸小金井妙徳寺日蓮上人開帳 ○月日より回向院にて攝洲茶碓山藤一

寺圓光大師引接跡陀如來開帳 ○月日より牛込山福寺にて相洲妙徳寺星

降梅日蓮上人像開帳○同日より新嘉前八幡宮内にて信明為界山建能寺不  
 勅為開帳○同月二日より本新嘉の目大佛勅進不之南於東大寺二月堂觀  
 世音鉢陀如來開帳○四月より護國寺蟹清水出現茶師自坊之開帳○  
 四月十八日書家関口黄山卒名忠貞 小日向金剛寺小菰○七月朔日より伊勢朝熊岳金剛  
 寺虛空藏并回向院之開帳○同月六日より茅場町茶師周之相勅令  
 目山坂東七番目聖觀音開帳○八月十九日大風雨芝浦辺竜巻あり○九月十  
 四日大風家松を抜た後芝浦井町辰吉八幡の 辰吉古掛次坊○十月十日儒師長次東海卒名五字元下 須賀野松菰  
 延享三年丙寅

二月朔日より隅田川本母古梅若丸寺本寺文殊菩薩開帳○同日より雜司谷  
 本納寺より相州系教寺休息日蓮上人開帳○二月廿九日夜に時宗築地本願寺  
 昭武家方より必火之この邊武家方一赤南八町燈本八町燈芝場町小綱町大

坂町燈町葺葺町芝場町芝場町松町燈町此邊武家方より喰町漢町日柳町米沢  
 町本所小泉町横綱町松井町相生町龜澤町此邊武家方漢屋より小塚原中七延燒  
 翌朔日夕七時移る漢屋より本例の 坊舎の未刻燒○二月晦日登本所美山寺横燈より出火大  
 風此辺の石院多く燒亡○三月より漢堂寺内松壽院大六條大天燈花傳開帳  
 ○書家赤井得水卒秘文次舟 伊勢町住○四月初日より橋上寺常照院芝浦出現  
 鉢陀如來開帳○同月より湯島又林内にて常洲麻呂護摩堂本寺五丈の  
 五開帳○下落合米王院勅進如來開帳○四月烏丸光榮公關東下向所  
 道の記ありしちかの漢の記といふ一巻○漢堂院の妙音寺にて駿河蓮永寺  
 日蓮上人鏡於開帳○日蓮不動尊境内にて下徳尊佛那正覺寺不動尊開帳  
 ○半邊京町後生寺より京上寺相実松寺兩新日蓮上人像開帳○八月十  
 八日より八月十八日迄日蓮 三十日漢堂寺觀世音開帳○同廿日より新嘉前大護院

八幡宮如地愛深明王開帳あひせんみやう○六月十日儒師藤江那良年林隆茂師久保光のちと著○七月

朔日より聖宿中地苑寺開帳あごこじ○七月より中祈彌勒寺川上茶師如地開帳

○七月十日秋澤章弼池田利英紀伊必孫熱湯の三人談茶川は網を打て一寸

七分の不動の像をとりて大同二年宣海と彫り谷中妙林寺不安置次さつとよ○九月

芝神明宮社主西条孝和寺天満宮主草聖像を掲げしむさつとよ○九月朔日より谷中

大系古く大慈天開帳おほい○十一月冬白野田社別当成徳院奉堂方丈鐘樓その外

とを焼亡あつとよ○事以合考字奉成あつとよ物持永あつとよ○江戸外より二冊持来あつとよ安橋子

○江戸名勝志持来あつとよ著之藤著あつとよ三巻

延享四年丁卯

二月朔日より淡草寺内梅園院子育仁王尊茶帳あつとよ○同日より淡草新地茶帳あつとよ

茶師如地開帳あつとよ○二月九日外堀田火事法慶の蒲邸教格九十字と云あつとよ○淡草

八幡寺町奉法寺之安房茶小松末鏡息古日蓮上人像茶帳あつとよ○牛込七軒

町久成寺之強河若本日蓮上人像茶帳あつとよ○二月朔日より谷中一宮寺子安鬼

子母神開帳あつとよ○十谷法養寺より甲坊歎淨經五寺日蓮上人開帳あつとよ○三月

黨濱島在去湯茶堂類刑せらる世に日本丸と云あつとよ○四月朔日大霜降つ

りるあつとよ○月日より深川永代寺之太極漸城徳生玉形神開帳あつとよ○月日より谷中

妙法寺之中山日蓮上人像開帳あつとよ○月日より廿日追押上実堂寺尊賢菩薩

開帳あつとよ○二田寺町林泉寺より実功聖安那牛蓋似村性生る園光大師開帳あつとよ

牛込神樂坂元寺親世寺不動寺開帳あつとよ○小石川若雄寺より引地巻寺開帳あつとよ

高橋正覚寺弘徳如地開帳あつとよ○横江名成院あつとよ神田明神北隣あつとよ後安永

後江ふあつとよ○六月十七日儒師菅野兼山年あつとよ○六月二日俳人小川破笠年あつとよ

八十金大名家有林羊助俳諧茶を再せよあつとよ○六月廿七日俳人致曲庵逸志年あつとよ

又塗物より多の細工小名わり揃下は位せりあつとよ

七十文法書

報恩寺塔中

四

○六月廿日太宰春菴年 八十八天林跡香露門 谷中 天現寺小築 ○春川秀蝶松石社(祇園會)細園の額を掲ぐ ○清光大権院八幡宮修復助成の三年の暮晴天八日の寄進帳終りあり ○七月初日より回向院より羽州湯殿山往連寺大日如来開帳 ○月日より回向院より上穂園小田森大寺古鉢院如東開帳 ○十月上旬より祐永風邪流行 ○十月廿日俳人菊岡沾味年 六十余才若房初号米山雀下菴林菴 右隣神田船所住 信子世々

此年間記事

真先稻荷社延享三四年の以より讀人多く繁榮せり ○谷中 多岐稻荷社 ○風閣 高山派修驗 船政あり 陽治大社中飯より聖堂根へ移る ○延享二年の美江の流行物を集めり白鳥のり時味風と歌を吟む門人及故新果然といへる人の編 西の書合 されあり 生肉と探る目次のとせたりあるは

遠来の山水 うたえ △雑司谷合式佛物 △門百夜系 △門風車 △志道新講釈 △中野桃園 △寫が屋吹矢 △下子屋系在邊香具 △女南力 △紙系及良書清 △辻宝引 △象股引 △券角力 △大名儉純 △聲道人 △竹村慈深 △笠森稲荷 △高田雷船之女相撲 △芝鏡切取 △赤坂奴 △山崎子紅系 △薩摩年 元文以来のの 珍書 りせ △回向院系淡雪 △池の端榎屋 小間 △深川筑紫 伊佐橋 △牡丹屋花 花廿日牛込白とす △海老系結鈴麦 △忠右中極本市 △清芝園十良父 松小市和とあり △湯島油揚 △伊四子楚 △霞面次巾 △山下敬修 下執子屋と結りて別れ後 牧音 國中本花と云後案あり土 及の類 未考 △中村屋貨物 伊佐橋 △吉系糖籠 △新邊坊主 未詳 △麒麟の助 糖業 △深川帽子 △系平揚 △忠儉純 未詳 △鳥越口譽 △巻松貞 鳥松也 △豊後節 △大名極細口 △神田酒 酒 △芝菜 若菜もやややの 仲指 △廣澤石摺 △豊後節 △大名極細口 △神田若 若 △羽織長短 △江戸川推本 矢場 △狂言他若津打治共清 △慈野十二所

△涼砥大星

秋末や二の日のうらやまの山狩野貴信涼砥の  
水戸の画師もこの日の出来事と画く小名あり

△八人藝

△智恵茂  
今も冬夜のりて  
控の松の松の

△鳴子丸 △扇屋深

丸くは角茶房地城六角茶房と以形を文(中)  
茶房茶房の形を色入(中)とつくつく(中)

△加賀骨扇二番林

△地蔵寺

△依紙折

△粒方坊

△木葉茶餅

△本葉茶餅

△本葉茶餅

△本葉茶餅

△本葉茶餅

河原も勢いけれり

○婦女のねりさしといふ物作の後一旦廢れり寛政より再成り○郡内

微塵鶴衣類を穿る○江戸路古依古犯茶籠木の標芝居ありしが

次寅小廢れ大段の儀をまじるとあり

寛延元年戊辰

十月間

七月十日改元

三月二日夜谷中瑞林寺より火本堂塔以下焼亡感徳寺

本堂塔門前所焼亡○三月十八日より魚籃觀世音困帳○同日より

三田基所泉福寺茶師困帳○同廿日より魚籃下大信寺觀世音困帳

同月廿五日官醫曲直津若瑞卒

六十三才養安院と号す  
麻布天竺寺小菘尼

○三月廿九日南郭の長子

温心卒

○四月初日より目黒松久寺延光寺雲空困帳○同日より

永代寺八幡宮困帳○二本榎兼致寺祖師困帳○浅草日輪寺本所回向院

の内の所は於て奥則會津西光寺日辰地蔵寺困帳○六月朝鮮人未禱

副使南茶孝後奉曹命某林菴東本於より○八月十日書家馬場真水卒

市谷長昌 ○同十月廿一日他人堀内仙鶴卒

○奥澤村浄心九品 焼失

同二年己巳

正月廿二日長瀬流草道祖長権耕雲卒

山義樹卒

帳記よりしてたまたまなり



○深川海傍舟夫天古川茶師必良安良・あせいか 品川寺水月親善あせいか 三の倫美二の親世善。  
 秋葉控現四谷成院鹽踏地為あきばな 淡草茶如剛泉住院為福舟夫天淡草茶の肉  
 日善院荒澤不動寺あひら 月松壽院六舟夫天暖氣本為あひら 池の好音寺好見芥  
 不忠池舟夫天あひら 文殊寺之池のうらを造る納む武年より芳下迄。谷中長運寺祖師懸子母  
 林三田寺町明王院弘法大師あひら 月不於海寺不動寺。在信風自傍舟居村の園蔵之  
 ○本母寺梅若丸二十方六千日供養○二月九日八回院又於之常陸國河内郡  
 大徳村空積寺子安舟夫天園懐○四月朔日より五月毎日返回院之三河  
 金山中檀林法義寺出世親世善園懐○五月十九日六月二日迄飛戸好義山  
 権現系帳○六月八日羅漢寺中興惠先和為寂七十 ○六月四日北村湖元卒  
 信谷日宗あひら ○七月朔日より回向院に於て信乃若若光寺南門前西前萱親子地  
 為舟園懐○常夏中より雨繁く降り七月も晴暑あり廿六日みいり大風

為舟り夫より雨降り曇り八朝大風起り時々雨降八月十二日の曉より小風大  
 嵐ありて半辺小日向出あり下谷溪至辺逆溢り出る田園に辺流を流し人々  
 湖を江戸川通り橋を押流し小石川通大木神田上水掛樋流を昌平橋能  
 遠橋中外科田川橋を流る由國橋大橋恙迄中不流川水を成九月一  
 日より御晴天とあり○八月光物花ふ○雜司谷鬼子母并境内又孝女く免と  
 りのりの麦茶を之作る南吉清獅子を賣り始む○十月十八日茶人望月  
 宗舟卒あひら 促格位 ○新著聞集十八冊刊行中古世の舟の船橋と ○今年江の  
 橋舟夫天本社之園懐有り江岸より系橋の遊楽あり  
 寛延三年庚午  
 二月十五日より下谷寺若地為舟園懐○高回感通寺毘沙門天園懐  
 ○二月十日より晴天十六日能遠橋河川外畠地に於て信乃の 親世夫是初進徳

